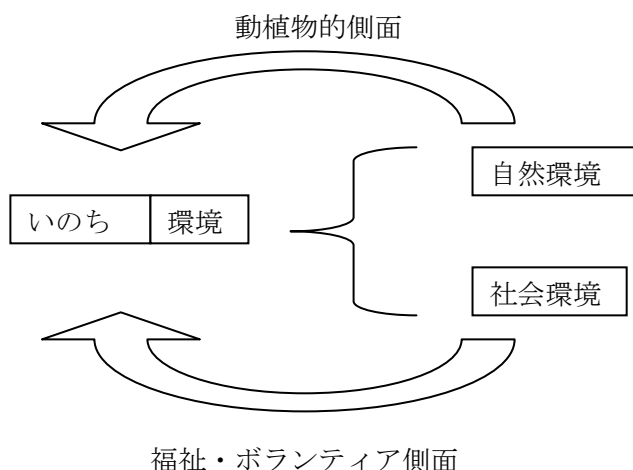


■研究の視点



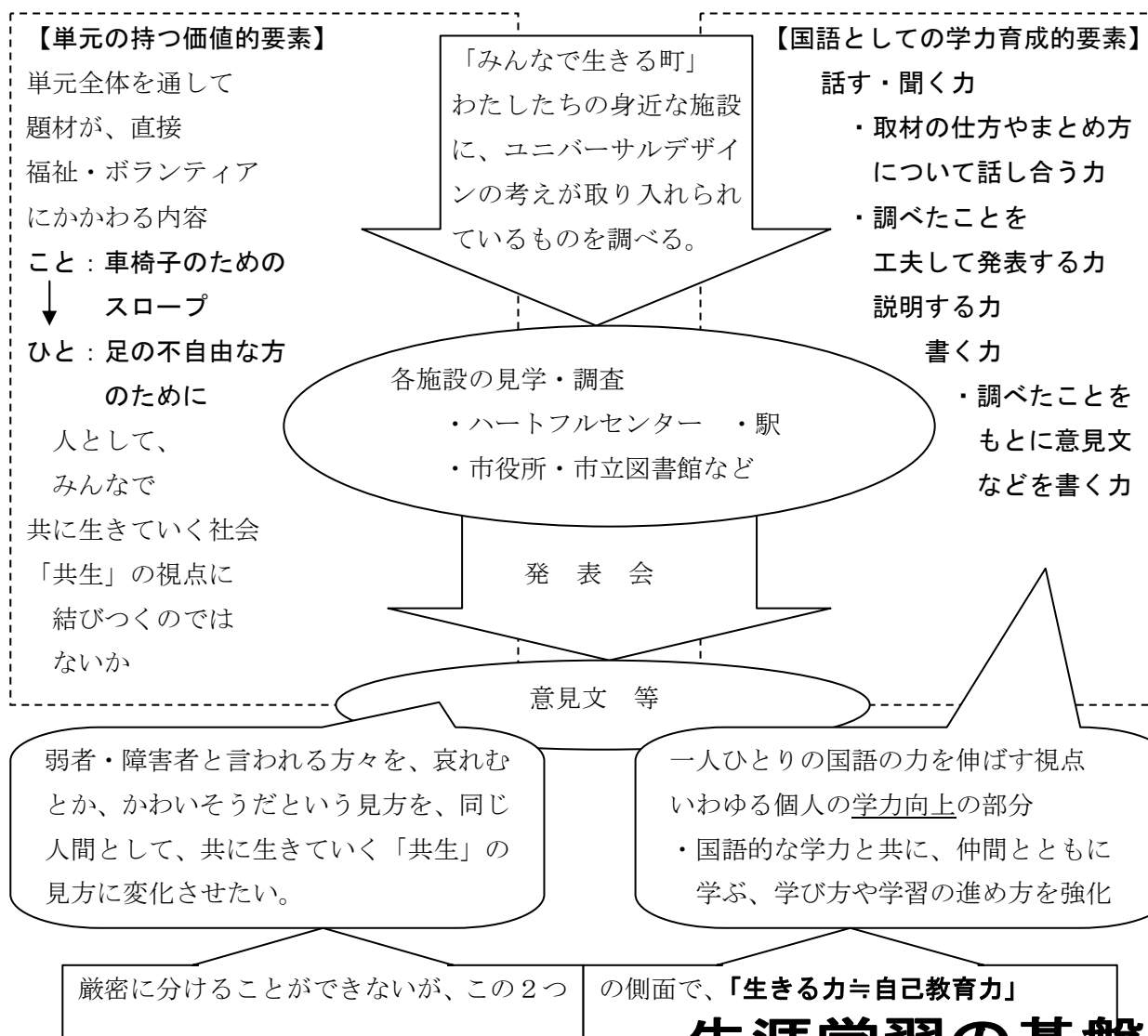
これまでは、主として自然環境からいのちの尊さ・大切さにアプローチしていく授業研究がなされました。研究の視点を広げる意味で、社会環境からいのちの尊さ・大切さについてもアプローチが可能ではないかと考えています。

■ひと・はな・こと

《6年生で考えている単元・授業構想》 単元：みんなで生きる町

◎「こと（社会的事象）」から「ひと」へのつながりを

◎話す聞く・書く力の高まりを



生涯学習の基盤

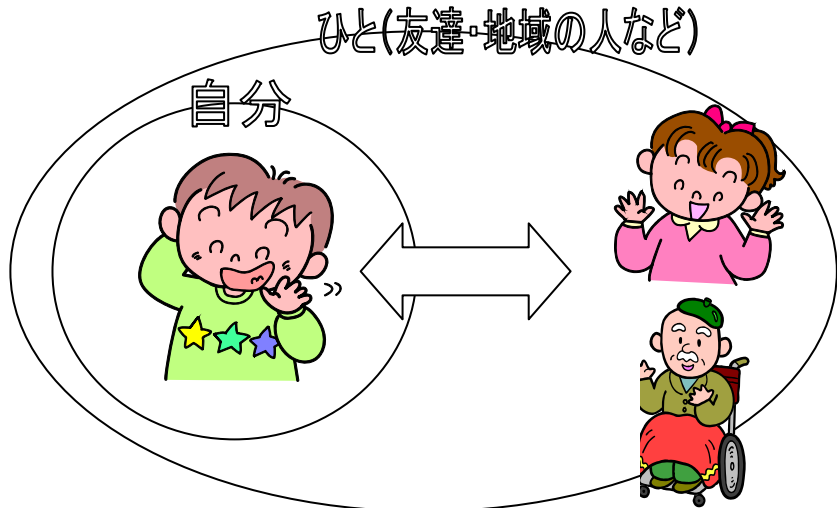
■かかわりあい と 学力 について

「ひと」とかかわりあう場面

ひととかかわりあうこと
によって

- ・自分の考えのよさを確認
- ・他のよさを学ぶ

そのためには
「振り返る活動」が必要



【かかわりあう】

この上下の、「かかわりあい」を通して生きる力を発揮する子供の育成へとつなげたい。
また、このかかわりあいは、学校テーマにある「響き合い」と言い換えることもできるであろう。
他との響き合いを繰り返すことによって、自分が響く（もしくは自分自身と対話する：ここが大事だと思う）＝これまでの自分の脱皮（成長）に結びつくにとらえる。

【学力】

学力を、テストの成績などと狭義でとらえるのではなく、上記に述べた「かかわりあい」や学習の進め方・態度といった、いわば「学び方」の部分にも光を当てて、広義にとらえたい。

◎見える学力も大事、見えない学力も大事 → 生きる力（自己教育力）→ 生涯学習へ

「こと（事象）」とかかわりあう場面

こととかかわりあうこと
によって

- ・新たなことを発見する
- ・よりよい社会を考える
など（共生の視点）

そのためには
「振り返る活動」が必要

